

「是枝教授とランチを」

【登場人物】

是枝（59） …… 映画監督 大学教授

波野 真理奈（18） …… 大学一年生

店員

○ファミレス・店内・（昼）

ランチの客たちで混雑している中、是

枝（59）がパスタを食べている。

声「教授」

是枝、顔を上げると波野真理奈（18）
がトートバックを持って立っている。

是枝「波野さん」

真理奈「外から見えたんで、学食じゃないん
ですわね」

是枝「たまにはこういう所もいいかなって…
…座って」

真理奈「…でも」

是枝「いいから好きなもの頼みな」

真理奈「失礼します」

真理奈、座る。

店員がやって来る。

店員「ご注文は？」

真理奈「ドリンクバーで」

店員「以上でよろしいでしょうか？」

真理奈「はい」

店員、去る。

是枝「食事はいいの？」

真理奈「はい……一度是枝教授とゆっくり話
してみたかったです」

是枝「そうなの」

真理奈「その前になんですけど、明日のゼミ
お休みさせていただきます」

是枝「いいけど、何か用事？」

真理奈「ちょっと撮影がありました」

是枝「モデルとか？もしかして映画とか？」

真理奈、恥ずかしそうに笑い

真理奈「まあ、そんな感じですよ」

是枝「そう、まあ、色々あるかもしれないけ

ど気をつけてね」

真理奈 「はい」

是枝 「で、話って？」

真理奈 「私、教授の祝辞に感動したんです。

元々、教授のファンで映画も見ているんですけど」

是枝 「照れるな」

真理奈 「今まで恵まれて甘やかされていたんだって、教授に活を入れられたみたいで。私、これまで怒ったり、不満を感じたりしたことなかったんですよ」

是枝 「そう」

真理奈 「ママ……母とか学校の先生にもそういうこと考えるなって言われてたんで」

是枝 「うん」

真理奈 「あの祝辞、反応もすごいですよね」

是枝 「何もそんなつもりじゃなかったんだけどね。こんなに注目されるとはね」

真理奈 「……皆『いいね』を押し付けていい気になってるだけですから」

突然の口調の変化に驚き、真理奈を凝視する。

真理奈 「皆』是枝さんが若い奴に言ってくれた』とか『ざまあみろ』程度にしか思っていないんですよ」

真理奈の顔から笑顔が消え、淡々とした口調になる。

真理奈 「私からしてみれば大人の都合のいい理屈が増えただけなんです。あっ、私ももう18だから大人なんでしたっけ？」

是枝 「いきなりどうしたんだ？」

真理奈 「勘違いしないで下さい。私、先生のお話聞いてそういうこと考えて初めて怒りが湧いたんです。何でこの人には想像力がないんだろうって」

真理奈の眼差しが鋭くなる。

真理奈 「明日AVに出るんです」

是枝 「え！」

真理奈 「前までピンサロで働いてたんですけど、どうにもならなくなっちゃって、AV

に出れば私、結構いい額稼げるみたいなんですよ。『現役お嬢様大学生AVデビュー』ってタイトルらしいです」

是枝「ちよっと待て」

真理奈「生活費位はなんとかなるかも」

真理奈、是枝を睨み付け

真理奈「先生は私たちの敵になりなさいっておっしゃいましたよね」

真理奈、トートバックから包丁を取り

出し、是枝に向ける。

真理奈「私に殺されてくれますか？」

是枝「」

(完)